

令和4年度

研究のまとめ

各支部 研究のあゆみ

宮崎県教育研究会 図書館教育部会

①西臼杵支部 研究のまとめ

小学校12校、中学校4校、合計16校

1 研究主題

豊かな心と学びを育む学校図書館～地域・家庭・公共図書館との連携～

2 研究の実際

(1) 地域との連携

① 地域のボランティア団体による読み聞かせ会

西臼杵には「おはなしの森」や「つくしんぼの会」、「えほん畑」など、読み聞かせを行うボランティア団体が多数ある。それらの読み聞かせ団体が定期的に学校へ来校し、子どもたちに読み聞かせ会を行っている。読み聞かせを行う本については学年に適したものを選んだり、季節に応じた本を選んだりして、児童生徒が親しみやすいようにしている。また、読み聞かせに併せて音楽劇や影絵劇、大型絵本の読み聞かせなども実施し、児童生徒に興味を持たせるようしている。



【ボランティア団体による読み聞かせ（宮水小）】

② 地域住民への学校図書館開放

高千穂町立上野小中学校では、地域住民に対しても学校図書館の貸し出しを行っている。貸し出した本は、保育園での読み聞かせに活用したり、保護者が子どもに読み聞かせをするのに活用したりしている。昨年度の貸し出し実績は120冊である。



【家読カード（日之影小）】

(2) 家庭との連携

① 「家読の日」の設定

子どもたちが家庭において積極的に読書をするのをねらいとし、「家読の日」を設定した。「家読の日」には少しでも多く読書の時間を確保するために、教師から児童生徒へ宿題は与えないようにしている。

読書後は、読んだ本の感想等が書けるように振り返りシートを準備した。振り返りシートに記入することで、本の内容を頭の中で整理することができていた。

② 文化発表会におけるビブリオバトル

五ヶ瀬中学校においては国語の授業にビブリオバトルを行っている。本の魅力をそれぞれ聞き手に語り、チャンプ本を決めるというものである。ビブリオバトルの準備時には、オススメ本のポップも作成し、学校内に掲示できるようにした。

国語の授業で行ったビブリオバトルで上位に入賞した者については、文化発表会で発表することになっている。上位入賞者が本の魅力を全校生徒に伝えることで、より読書に親しんでくれるのではないかと考えた。また、文化発表会のビブリオバトルには、地域住民や保護者も参加した。大人が参加することで各家庭での会話においてビブリオバトルが話題に出ることをねらいとした。



【ビブリオバトル（五ヶ瀬中）】

③ 図書便りの発行

「家読の日」の感想等を図書便りに掲載し、各家庭へ配付した。また、オススメの本や学校図書館の現状などについても掲載し、読書推進を図った。

④ 電子書籍「Yomokka!」の活用

「Yomokka」とは電子書籍読み放題のタブレット端末用アプリケーションである。たくさん電子書籍が無料で読めるようになっており、多くの本に親しむことができる。各家庭にも使い方やオススメの書籍などについて周知し、実際に活用をしてもらっている。

②東臼杵支部 研究のまとめ

小学校 11校 中学校 4校 義務教育学校 2校

『東臼杵支部』の各学校の取組

1 各学校の具体的な取組

(1) 読み聞かせボランティアの活用

- ① 朝の活動での読み聞かせ
- ② 読み聞かせをした本の紹介



【読み聞かせをした本の紹介】

(2) 家庭との連携

① 親子読書

・ 家庭で読書に親しむことを目的とした「親子読書週間」を設けた。親子でお勧めしたい本について、絵と文章で表現させ、掲示した。

② 「読書の日」の宿題

・ 月に1回、「読書をして感想を書くこと」や「読書をして心に残った場面の絵やおすすめポイントを文章で表現する活動」などを宿題にした。提出後は、読んだ本と一緒に掲示して他の児童の目にふれるようにした。



【読書の日の本の紹介】



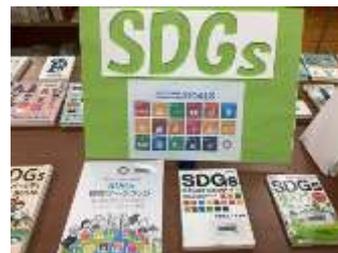
【「おすすめの本」掲示の様子】

(3) 教科等のつながりある活動

① SDGs コーナーの作成

・ 学校全体で取り組んでいる SDGs 教育と連携し、図書館に特設コーナーを作成した。

② 国語科での POP 作成



【特設コーナーの設置】

(4) 「多読賞」の表彰

① 目標冊数

・ 目標冊数の本を借りた児童生徒に対して、毎学期表彰を行った。

② 貸し出し冊数

・ 学年や学年部ごとに上位3名の表彰を行った。



【生徒が作成した POP】

(5) 本の充実

① 選書会の実施

・ 子どもが選んだ本を参考にしながら購入した。

② 「〇〇文庫」等の活用

ア みさと文庫（選書した本を学期ごとに町内の学校で巡回させる。）

イ やまびこ文庫（県立図書館のサービス）

ウ 門川の子どもたちに読ませたい図書100冊

エ 地域の図書館の団体貸し出し

オ 「飛び出す司書」（予定：地域図書館の司書の方が巡回する。）

③ 「教科書に出てくる本」の購入

(6) 読書集会の実施

① 教職員による読み聞かせ

② 委員会児童による劇（読書にまつわる日常の一コマ、図書館の正しい利用の仕方など）

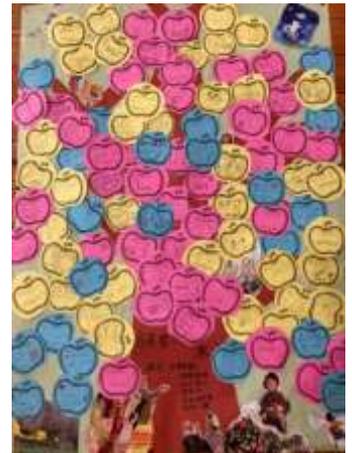
③ 先生方の「子どものころ好きだった本」の紹介



【先生方の「子どものころ好きだった本」の紹介】

(7) イベントの実施

- ① 「図書館祭り」の開催
 - ア 読書ビンゴ
 - イ 読書おみくじ
 - ウ しおり作り
 - エ クイズ (図書館について、本について)
 - オ 児童生徒による読み聞かせ (昼休みに図書館で、昼の放送で)
- ② 「読書の木」
 - ・ 委員会児童が木の幹と実を作り、各教室に配付した。1か月間、実に名前と読んだ本の題名を書いて木に貼ってもらった。
- ③ POPの作成・紹介
- ④ ブックラリー
 - ・ 学級内でグループを編成し、図書室で4つの問題を解きながらゴールを目指す活動を行った。参加賞として図書貸し出しカードプラス1冊券を配付した。



2 取組の成果と課題

(1) 成果

- 取組によって少しずつ読書に親しむ姿が学校全体で見られるようになってきた。 **【読書の木】**
- 普段はあまり図書館を利用しない児童生徒が、図書館に来て意欲的に読書をするようになってきた。
- SDGsなどの特設コーナーを設置したり、読書ビンゴを行ったりすることで、900番台以外の書籍を手取る姿が見られた。
- 学級や家庭、委員会など様々な視点から読書啓発を推進することができた。
- 児童生徒によるPOP作成などで、興味を引くことができた。

(2) 課題

- 継続的な読書習慣があまり身に付いていないので、イベント時のみ図書館利用が増える傾向にある。
- 本を借りることだけに夢中になり、しっかりと本を読んでいない児童が見られた。読書の質を高める取組を工夫していく必要がある。
- 学校図書館を利用する人とならない人の差が大きい。
- 様々な取組を通して、本に興味をもつ児童生徒が増えてきているが、さらに多くの児童生徒が本に親しむことができるように継続した取組を行ったり、より効果的な活動を検討したりする必要がある。
- アウトプットによる表現が、読書への関心を高めているのか疑問が残る。特に読書に関する宿題では、絵や文章で表現をするため、保護者の負担も考慮したい。
- 地域図書館との連携を深めていく必要がある。

〈研究担当者 諸塚村立諸塚小学校 甲斐千枝〉

③日向支部 研究のまとめ

小学校10校、中学校4校、小中一貫校3校、分校1校、小中合計17校

はじめに

平岩小中学校は、小中一貫校であり、小学部と中学部が互いに連携しながら、9年間の一貫した指導のもとで特色ある活動を行っている。今年度は昨年度の読書冊数を参考にして7000冊という読書冊数を目標にして、児童生徒、図書に携わる先生方と一緒に取り組んでいる。

1 読書活動の連携について

- (1) 小学部と中学部の図書担当が連携して、読書活動の推進を図っている。小学部がビブリオバトルの実施計画を作成したり、中学部が図書便りを発行したり、図書のイベントを行うときは小学部、中学部で協力したりしながら、連携を図っている。
- (2) 学校図書館司書が週に3日、来ているので、季節に応じた図書室の掲示や昼休みの貸出、学級図書の入れ替えなどを行っている。また、読書週間などのイベントの際は図書担当や図書係、BookLoversの児童生徒と一緒にアイデアを出し合いながら、一緒に取り組んでいる。学期ごとに本の返却状況や多読賞の決定をするときなど、その日のうちにパソコン等で情報を学校図書館司書よりもらっている。さらに、図書室の児童生徒の様子や図書室の状況などを速やかに連絡してもらい、図書室運営にはなくてはならない存在になっている。



- (3) 日向市立図書館が定期的に団体図書を配達し、各授業で必要な本を準備して貸し出してもらったり、図書室運営についてアドバイスをいただいたりと学校にとっては大変頼りになる存在として位置付けられている。今年度は中学部8年生(中2)の「多様な方法で情報を集めよう」～職業ガイドを作る～という単元で職業に関する本を30冊ほど準備してもらい、生徒は様々な本の中から自分が知りたい情報を選ぶことができ、大いに役立っている。



2 学習委員会の図書係と Book Lovers との活動について

BookLoversとは5年生から9年生までの読書の好きな児童生徒の集まりである。年度当初に募集し、毎年15名ぐらいの児童生徒が集まり、図書に関するイベントなどを図書係と協力して活動している。今年度は、12月に学校図書館司書の提案で1月のおみくじの内容を考える活動を行った。いろんなアイデアが集まり、充実した活動になった。また、ビブリオバトルの運営や図書室の掲示などについても適宜行っている。

3 ビブリオバトルについて

年に2回、図書係とBookLoversでビブリオバトル出場者を募り、ビブリオバトルを開催している。コロナ禍ということもあり、Teamsでの配信をしている。昨年度までは5年生から9年生で開催していたが、今年は1年生から4年生までの低学年の部も開催することになった。低学年の部は、学級担任が中心となり、各クラス、7分間を担当し、図書室から配信することにした。高学年の部では、5名の児童生徒が図書室から一人4分間で好きな本を紹介し、2分間の質問に答えるスタイルをとっている。今後もビブリオバトルを続けられるように誰でも気軽に参加できるような取組にしていきたい。



4 読書週間について

図書担当の職員と学校図書館司書、児童生徒の図書係、BookLoversと一緒に読書週間の計画、準備、役割分担をして進めている。今年度は1年生から4年生まで、5年生から9年生までのビンゴカードを作成して活用した。縦、横、斜めの一つが揃えば、しおりをプレゼントするという企画である。図書室のキャラクターであるアンデルセンの塗り絵も行い、読書週間後に掲示する予定にしている。

5 読み聞かせボランティア「どんぐりの会」について（財光寺小学校）

ア 歴史 20年目

イ メンバー ・ 現在5名在籍。一番多い時で10名だった。
・ 我が子の入学でボランティアを始め、卒業で終える方が多い。

ウ 目的 ・ 子どもたちに本の世界を楽しんでもらいたい。

エ 実施内容 ・ 週1回15分間実施している。
・ 毎週1学年ずつ。1つの学年位回ってくるのは2ヶ月に1回程度。
・ 1クラスに1、2名来て3～4冊の本の読み聞かせを行っている。
・ 季節や行事に合わせて、自分が読んで楽しい本を選んでいる。

6 読み聞かせボランティアサークル「あさがおの会サークル」と市雇用図書館司書、細島保育所の職員による読み聞かせについて（細島小学校）

- ・ 実施日時： 毎週月曜日 13時20分から13時35分（15分間）
- ・ 実施内容： 全学年を対象にボランティアの方が選んできた本の読み聞かせをしている。また、低学年は、細島保育所の職員が読み聞かせを行い、卒園生の様子も見ている。週に1回ではあるが、児童は読み聞かせの時間をとても楽しみにしており、本をあまり読まない児童にとっては、本に触れるよい機会となっている。



【保育所職員による読み聞かせ】

※「あさがおの会サークル」

日向市立細島小学校の読み聞かせボランティアサークル。今から20年程前に、保護者と学校の思いが重なり始まったと聞いている。今後の活動の展望としては、20年も続いている読み聞かせであるので、今後も継続して取り組んでいきたい。

7 おわりに

今後も図書に携わる多くの方々や市立図書館との連携を図りながら、読書の魅力を発信し、読書に親しむ児童生徒を増やしていくための活動を続けていきたい。

④延岡支部 研究のまとめ

小学校26校、中学校15校、義務教育学校1校 合計42校

1 研究主題

『 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成
～ 児童生徒の豊かな心を育み、自主的な学びを支える図書館運営を通して ～ 』

2 研究の実際

第1回 図書館教育部会 「今年度の研究等について」

- ① 役員選出 新役員の紹介・あいさつ
- ② 今年度の研究等について
・ 研究主題・副題 ・ 研究計画 ・ 予算案
- ③ 令和4年度宮崎県学校図書館教育研究大会都北大大会について
- ④ 令和5年度九州大会について

第2回 図書館教育部会 「読書感想文・感想画コンクール審査会」

- ① 読書感想画審査員（講師）の紹介（2名）
- ② 審査の進め方の確認
 - ◆ 読書感想文
 - (1) 各校出品数と応募票を確認する。
 - (2) 学年・類別ごとに作品を分ける。
 - (3) 審査（自分の担当学年以外の学年を審査する）
※ 小学校・・・学年ごとにグループを作って審査を行う。
※ 中学校・・・3学年に分かれて審査を行う。小学校の審査を手伝う。
 - (4) 県出品作品の確認
・ 県出品名簿は審査グループごとに記入し、審査終了後に提出する。
・ 各校の出品状況は、本部で学校応募票を見ながらエクセルに入力する。
・ 県出品作品で訂正が必要な場合は、用紙をつけて返却し、再提出する。
 - (5) 作品の振り分け
・ 県出品分は、学年・類別ごとにまとめる。
・ 各校返却分は各校の出品者名簿に入選者名を記入し、選外作品は学校名が書いてある封筒に置く。
 - ◆ 読書感想画（多目的室）
 - (1) 各校出品数と応募票を確認する。
 - (2) 学年・類別ごとに作品を分ける。
 - (3) 審査
・ 2名の講師を中心に審査する。
・ 審査に参加する会員は、感想文審査の様子を見ながら交代で参加する。
・ 県に出品する作品が分かるよう、裏面の応募票に付箋をつけておく。
 - (4) 全員で審査室に移動し、講師から読書感想画の審査結果及び講評をいただく。
 - (5) 県出品作品の確認
・ 県出品名簿は審査グループごとに記入し、審査終了後に提出する。
・ 各校の出品状況は、本部で学校応募票を見ながらエクセルに入力する。
 - (6) 作品の振り分け
 - ① 県出品分は、学年・類別ごとにまとめる。
 - ② 各校返却分は各校の出品者名簿に入選者名を記入。選外作品は学校ごとにわかる。
 - ⑤ 講師2名からの講評
ア 読書感想画選定のポイント イ 読書感想画の指導法 ウ 読書感想画に使える技法
 - ⑥ アンケート用紙の記入

第3回 図書館教育部会 （研究推進委員会）

- ① 各学校の取組みの紹介 ◎・・・成果
 - (1) N小学校の取組 「なかよし読書」
 - ・ 1年－6年、2年－5年、3年－4年でペアを組み、上の学年が読み聞かせをするという取組。運動場や中庭に敷物を敷いて行う。
 - ◎ 高学年には『読んで聞かせる』という活動から自主的・自発的な読書活動へ、低学年は『読んでもらった』→『自分で読みたい』という読書意欲へと繋がった。



(2) A小学校の取組 「NOメディア週間」

- ・ 家庭でメディアとの関わり方や生活習慣を見直し、読書をしたり家庭とのコミュニケーションの時間を増やしたりする態度や習慣を身に付けることを目的とした取組。
- ◎ NOメディアと家読週間を同時に行うことで、「テレビや動画を見る時間を決め、読書をする時間を作る」ことを意識させるきっかけになった。

(3) T小学校の取組 「読書の木」

- ・ 始業前の7時50分から10分間は「朝読(あさどく)」の時間とし、この時間に10人読書していれば、読書の木の実に1個色を塗ることができる。
- ◎ 登校時刻が間に合わなかった児童が登校を早めて朝読をするようになった。
- ◎ 読書に関心がなく本を手にとらなかった児童が朝読の時間に学級文庫の本を持ち出す姿が見られるようになった。



(4) A小学校の取組 「図書祭り」

- ・ ラッキーくじ、図書クイズ、しおりプレゼント、おすすめの本紹介
- ◎ 貸し出し数が増えた。クイズを行い、普段は目が向かないジャンルの本も手に取り、読書の幅が広がった。

② 九州大会の発表(オンライン開催)についての検討

- ・ 発表内容
- ・ 発表資料
- 資料作成分担

3 研究の成果と課題

① 成果

- 審査会で、美術専門の講師を招いて読書感想画の審査を行うことにより、読書感想画の取り組み方や審査の方法などを学ぶことができ、これからの指導の参考となった。
- 令和5年度の九州大会に向けて、発表内容を共有することができた。

② 課題

- 読書感想文・感想画コンクール審査会に、募集の要項に沿わない作品が出品されていた。各学校への伝達の方法を工夫し、分かりやすく伝えていく必要がある。
- 新型コロナウイルスの影響も有り、各学校の実践紹介などの研修を行うことができなかった。来年度は副題でもある「学びを支える学校図書館について」研修を行い、実践が共有できるとよい。

1 研究項目・内容

『学習情報センターとしての学校図書館の活用について』

2 取組の実際

- (1) 学習センターとしての環境の整備（授業をすることが可能な環境の整備等）
 - ・ 教室と同じように授業を進められるための移動黒板の配置
 - ・ 季節の飾り付けなどで使用していた図書室の黒板を授業として活用
 - ・ 図書室横のパソコン室整理による学習スペースの確保
 - ・ 作文作成や勉強法、英語検定や漢字検定に関する書籍や問題集を整理した勉強本コーナーの設置
 - ・ 各種新聞の設置
 - ・ 学習やキャリア教育に関連する記事を掲示、ファイル化した新聞コーナー ※資料①
- (2) 授業での活用に視点を置いた工夫（児童の使いやすさの追求）
 - ・ 国語の教科書に掲載されている本を学年ごとにまとめたコーナーの設置 ※資料②
 - ・ 国語の教科書の関連図書への授業月を示したシールの貼付
 - ・ 教科書に出てくる筆者が書いた本や関連図書の紹介
 - ・ 学習に役立つ本をリストアップし、「読んでみようリスト〇〇の本棚」リーフレットの作成 ※資料③
 - ・ 学校図書館協力員による学習に必要な図書の準備
 - ・ 「調べ学習8か条」を用いた総合的な学習の時間や国語の授業での調べ学習の実施やレポート作成、リーフレット作成
- (3) 全職員を巻き込んだ学校全体での取り組みの工夫
 - ・ 年間を見通した図書資料の活用を行うための資料収集計画表（先生方が授業で図書館資料を活用したい教科や単元を記入したもの）の作成及び計画表作成に関する研修の実施 ※資料④
 - ・ 各教科等で図書室の資料を活用した授業を行うための各学年の授業における図書室利用計画の作成
 - ・ 授業に役立つ資料を備えるなどの学習支援を計画的に行うための授業支援図書計画表の作成
 - ・ 活用の時期やどのような本を使うか、図書館協力員にお願いしたいこと等を記入した図書室活用計画の作成
 - ・ 学習で活用するための図書購入希望調査（各学年）及び必要図書の購入
 - ・ 国語科、学年部、委員会等との連携によるビブリオバトルの実施

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 学習スペースの設置や図書の充実により、昨年度に比べて授業で図書室を活用する学級が増えた。
- 授業支援図書計画表を作成したことで、担任も学校図書館協力員も図書室を利用する授業の見通しをもつことができた。
- 資料集収集計画表を作成したことで、授業で使う資料の準備時間が省け、児童生徒に多くの情報を知らせることができた。
- 図書室活用計画を作成したことで、昨年度よりも授業で図書室を利用する機会が増えた。

(2) 課題

- 授業の中での図書室の活用をさらに進めることができるように、学習情報センターとしての図書室の役割を教職員に周知する必要がある。
- 学級で図書室の本を利用して学習する学級があったが、学習情報センターとしての機能を生かし図書室でも学習できるように更に環境を整えていく必要がある。
- 学校図書館協力員への学習に必要な資料を準備するなどの依頼が少なかったため、連絡を密にして学習情報センターとして機能を促進していきたい。
- 授業で使う資料がまだ十分ではないため、今後も学校図書館協力員と市立図書館との連携を図りながら学習情報センターとしての機能を充実していく必要がある。

4 資料



①【新聞コーナー】 ②【学年コーナー書架】 ③【読んでみようリストリーフレット】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
小学部 1年							書籍	書籍	書籍		書籍
小学部 2年		絵本類	絵本類			絵本類				書籍	
小学部 3年		児童書	児童書			児童書				絵本	
小学部 4年			書籍			書籍		書籍		書籍	
小学部 5年				書籍				書籍		書籍	
小学部 6年					書籍			書籍		書籍	
中学部 1年											
中学部 2年											
中学部 3年											
中学部 4年											
中学部 5年											
中学部 6年											
図書			クラブ								

教科	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間で、来作について調べ学習を行っています。内容は、及びの帯で扱っている「ヒノカキ」について調べています。来作に関する内容の本を1冊に準拠していただくと助かります。5年教室に1冊でも送られる形で買込みまで書いておきたいと考えています。
単元名	ヒノカキについて調べよう	
教科	国語	・授業に注目して、貸したり本を貸し合い、読み広げる活動です。 ・教科書p2～85のコピーをお願いしますので、もし、同じ本が、「これも読んでみたいよ」という本が、ありましたらご用意いただけますとありがたいです。
単元名	授業で広げるわたしたちの読書	・教室に、7月頃から夏休みまで置いておきたいです。
教科	国語	・文庫と図表やグラフ、写真を貼り付けて読み、書評や絵の巻の巻について考える学習です。 ・教科書p146～147のコピーをお願いしますので、もし、同じ本が、「これも読んでみたいよ」という本が、ありましたらご用意いただけますとありがたいです。
単元名	読書広げる読書の時間	・教室に、10月中旬頃から1か月程度置いておきたいです。

資料④【資料収集計画表】

〈研究担当者 小林市立南小学校 馬場田享子〉

⑦児湯支部 研究のまとめ

小学校 15校 中学校 10校 合計 25校

「川南町立東小学校」の活動の取組

1 はじめに

本校は、全校生徒117名（6学級、特別支援学級2学級）の小規模校である。「読書の習慣化」を図るため、『図書館運営の工夫改善』『読書指導の充実』を図り、委員会活動を中心に他の職員と連携しながら学校図書館の利用促進を行っている。

2 具体的な取組

(1) 読書活動の支援

① 朝読の実施

毎週水曜日（8:15～8:30）までの15分間を朝読書の時間としている。読み聞かせが実施される日は、読み聞かせ担当学年以外は読書の時間となり、15分間の読書活動を行っている。

② 学級文庫の設置

主に朝読書用の本として、学級文庫を設置している。学年に応じた本を設置し、学期ごとに入れ替えをしている。

③ ファミリー読書週間の実施

6月と10月の計2回、ファミリー読書週間として家族で本に親しむ時間を増やして欲しいと考え、全校で取り組んでいる。また各家庭の実態を考慮して、以下の4つのタイプで取り組むように呼びかけた。

- | |
|--|
| ① おうちの人（親・兄弟・姉妹・祖父母など）から子どもへの読み聞かせをする。 |
| ② 子どもからおうちの人（親・兄弟・姉妹・祖父母など）への読み聞かせをする。 |
| ③ 別々に同じ本を読む。 |
| ④ 別々の本を読んで後で交換する。 |

(2) 委員会活動

① 図書館祭りの実施

毎年10月下旬に、委員会を中心とした図書館祭りを行った。本年度は、「読み聞かせ」「絵本クイズ」「塗り絵」を企画し、多くの児童に本に親しむ機会を設け、学校図書館の魅力や読書することの楽しさを伝えようとする姿が見られた。

〈図書館祭りの様子〉



塗り絵の様子（左） 読み聞かせの様子（中央） 作成したしおり（右）

② 新刊図書の紹介

多くの児童が学校図書館に足を運び、さまざまな本を知ってもらうために、委員会活動として新刊図書の紹介を行った。昼の放送時間を活用して、各学年向けの本のタイトルやあらすじを紹介し、普段本を読まない児童も学校図書館に足を運んでもらえるよう、委員会を中心に呼びかけを行った。委員会の呼びかけもあって、多くの児童が新刊図書を借りる姿が見られた。

(3) 外部との連携

- ① 読み聞かせボランティア「虹の玉手箱」による、読み聞かせ活動の充実
本校では年間5回の読み聞かせを実施している。読み聞かせの日は朝読書の時間を8時15分から8時30分までとなり、読み聞かせの学年以外は朝読書の時間としている。



〈「虹の玉手箱さん」による読み聞かせの様子〉

- ② 町雇用図書事務職員による学校図書館の整備

本校は、町雇用図書事務職員が週一・二日勤務されており、委員会活動の補助や学校図書館の環境整備、本の紹介などを行っていただいている。季節に応じた掲示物や飾り付けがされているなど、掲示物や本の配置に様々な工夫があり、生徒たちの目に留まりやすく、飽きさせない環境づくりが行われている。また、年度初めには図書オリエンテーションを行い、本の借り方や学校図書館の利用の仕方を指導して頂いた。



〈町雇用図書館事務職員による、掲示物や本の紹介コーナー〉

3 今後の活動の展望

委員会活動を通して、本に触れる機会や学校図書館に足を運ぶ機会を増やすような取り組みができたが、単発的な活動が多く、継続的な働きかけがあまりできていなかったように思う。次年度は、常に魅力ある学校図書館を作れるよう、年間を通した活動を計画していきたい。

『西都市内小・中学校』の取組の様子

1 実態

各学校によって差はあるが、全体的に貸し出し冊数が少ない。また、学校全体で決められた読書の時間が少ない現状にある。そのため、読書推進委員や図書委員の児童と読書意欲を高める取組を行ってきた。

2 各学校における読書を高めるための取組

(1) 図書担当からの働きかけ

① 地域のボランティアの方による読み聞かせ

学校によって実施回数は異なるが、年に6回～12回朝の時間などを活用して読み聞かせを実施している。

② 西都市民会館のアウトリーチ事業「米良美一の読み聞かせコンサート」

各校で申し込み、コンサートを実施した。ピアノの演奏と米良さんの読み聞かせによって、児童たちは本の世界に、じっくり浸ることができた。会場には、図書館のご協力のもと、おすすめの本を展示した。読み聞かせ後、おすすめの本を求め図書室に通う児童・生徒の数が増加した。



③ 「読書週間」「ファミリー読書」の実施

読書週間では、読んだ本の感想や紹介文を記録カードに記入し、各学級に掲示した。毎日、本を読んだらりんごの木に色をぬり、読んだ時間によって色を変えられる方式を加えると、読む時間を増やす児童・生徒が増加した。「ファミリー読書」では、家庭での読書推進を目的として、各家庭で行う読書の取組を1週間設け、カードに記入してもらった。読書の方法は、「読み聞かせをする」「お子さんに読んでもらう」「親子で、交替読み」「同じ本を読んで感想を述べ合う」「違う本を読んで、それぞれに感想を述べ合う」の中から選択することにした。少しの時間でも親子の時間ができ、更に、本に関する会話が増えたと、保護者からも好評だった。



④ 児童の意欲喚起や、本への興味を高めるための掲示の工夫

図書室前の掲示板に、昨年度と今年の貸し出し数の推移が分かる表や、各学級の年間貸出目標を掲示することで、児童・生徒の読書意欲が高まってきた。

⑤ 西都市立図書館「学校支援セットの貸し出し一覧」サービスの活用

西都市立図書館が独自で作成している、学校支援セット一覧を活用して授業での調べ学習を進めてきた。本を使っての調べ学習を優先することで、児童・生徒の本に対する興味・関心が深まってきた。



(2) 図書委員会の働きかけ

- ① 中学生及び高学年による低学年への読み聞かせ
小中一貫の学校では、図書委員会の児童・生徒たちが自分たちで、どんな本を選び、どんな読み方をすれば、低学年の児童が興味をもって聞いてくれるかなどを考え、朝の時間を活用して読み聞かせを行った。読み聞かせ後は、低学年の児童が読み聞かせをすることに興味を持ち、お兄さんやお姉さんのように読めるようになりたいと、教室で真似をしている姿が多くみられた。
- ② スタンプラリーの実施
借りた冊数分スタンプをもらうことができ、スタンプカードが一枚貯まると、しおりのプレゼントや本が3冊借りられる（いつもは2冊）など、児童・生徒たちで、どうしたらみんなが本を好きになってくれるかを考えて取り組み、実践していた。
- ③ この本さがせ・図書館クイズ
見つけてほしい本（各学年部に合わせた本）を事前に準備したり、図書館クイズを作成したり、いろいろな本を知るきっかけづくりを自分たちで考え、実行していた。その本を読みたくなるような工夫があるとさらに良い。



(3) 図書推進委員の働きかけ

- ① 授業で使う本など、すぐに西都市立図書館や他学校と連絡をとってくださった。
- ② 季節感が感じられるような図書室の運営をしてくださった。
- ③ 学期ごとの多読書賞の準備や年間多読書賞の準備。新規図書の購入時の本の選定の協力や注文、廃棄、修繕などをしてくださった。
- ④ 本の貸し出しに積極的に関わっていただき、発達段階に合う本を紹介してくださった。
- ⑤ 宮崎の郷土に関わる本の設置を行い、児童・生徒の興味関心を高めてくださった。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 各学校、地域ボランティア、保護者、そして学校が一丸となって、読書推進に取り組んでいくことで、本に興味を持つ児童・生徒が増えてきた。
- 児童・生徒が主体的に、図書室運営をすることで、図書室が一段と華やかになり、児童・生徒が受動的ではなく、能動的に活動できる環境になってきた。

(2) 課題

- 読書量の個人差は、まだまだ大きく、読書への啓発のための更なる工夫が必要である。
- 学年が上がるごとに、図書室利用がやや減少し、調べ学習など、すぐにインターネットを利用する姿がみられるので、引き続き、まずは、本から必要なことを読み取るという力を身に付けさせていきたい。

※ 西都支部主任会より、「図書館教育の現状や課題」

- 昨年度同様、図書館支援員の方の出勤が減り、西都市内の多くの小・中学校は、図書館運営に支障をきたしている。
- 2026年4月に全ての中学校が統合され、1校に再編されることを受け、現在それぞれの学校にある図書室の本は、どうしたらよいのか、廃棄する本をどのように選定していけばよいのかなど、様々な課題が山積みで、これから更に、具体的な話し合いが必要である。

(研究担当者 西都市立三財小中学校 俵 裕子)

1 研究項目

「豊かな心と学びを育む学校図書館」～学校における読書指導～

2 研究の実際及び各学校の取組

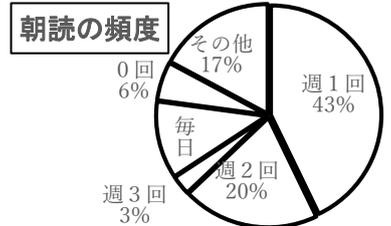
(1) 研究の実際

コロナウイルス感染症拡大防止を考慮して、南那珂地区においては、学校における読書指導に関するアンケートを行い、各学校の実践の工夫をメールにて報告することで全体共有を図った。

(3) 各学校の取組

① 朝の読書について

それぞれの学校で工夫しながら、取り組んでいた。学年ごとに、実態に応じて異なる取組を行っている学校もあった。朝の読書に取り組むことで、落ち着いた学校生活がスタートできるという成果が見られた。



② 読み聞かせについて

参観日、朝の時間、給食の時間、「夜の図書館」など、様々な時間に読み聞かせを行っていた。

読み聞かせ通信を発行したり、終礼などで職員に読み聞かせによい本の情報を発信したり、デジタル絵本を作成したり、PTA 図書部と連携して企画したり、様々な工夫が見られ読書に親しむ姿が多く見られるようになった。

読み聞かせを行った人



③ 読書カードの工夫について

読書カードの名前は様々だが、多くの学校で活用していた。カード活用により、児童生徒の意欲を高める以外にも、実態把握にも役立っていた。また、ファミリー読書にも多く活用されており、家族と一緒に読書する時間(家読週間)を新たに設けた学校も多く見られた。



④ 読書集会、イベント等について

図書委員会や中学生が中心となって、密にならないように工夫しながら取り組んだ。児童生徒の主体的に楽しく取り組む姿が見られ、図書室利用も増えた。例) 読書ビンゴ、おすすめの本紹介、読み聞かせ、貸し出しの仕方の寸劇、クイズ、読書すごろく、貸し出し本のランキング、読書通帳の説明、宝探し、図書パズル、読書ツアー、図書委員会の活動のお知らせ、図書司書の紹介、ポップコンテスト、運動会の団で勝負、読書おみくじ、福引き貸出など

- ・1冊につき1つスタンプを押す。シールを貼る。ポイントにより、プレゼント。(しおり、もう1冊券、禁帯本(新刊図書等)が借りられる券など)
- ・本の題名を書く。
- ・最初に目標を決めさせる。
- ・市の取組を活用する。
- ・読書ビンゴをする。



⑤ ブックトークやアニメーション、ビブリオバトルについて

季節や行事、修学旅行の事前学習、新刊紹介などに合わせて、市立図書館の職員や学校司書、地域のボランティアの方によるブックトークを実施した。朝読の最後5分間、生徒同士で取り組む学校もあった。

また、11月の図書館イベントでアニメーションを実施した学校もあった。

文化祭や授業、全校朝会等でビブリオバトルに取り組んでいた。中には、リモートで他校と協力して実施している学校もあった。図書司書と一緒に取り組むので、教諭の負担は少ない上に、効果は大きかった。このような取組で、いろいろな本に興味をもつ児童生徒が増えた。



アニメーション→

←ビブリオバトルの様子

たべたかな? たべなかったかな
1・2年生 「はらぺこあおむし」
なまえ

メニュー
たべたO たべなかったX

たべたもの	OかX
すもも三つ	
りんご一つ	
なし三つ	
いちご五つ	
オレンジ六つ	
チョコレートケーキ	
チーズ	
ソフトクリーム	
ピクルス	
サラダ	
さくらんぼケーキ	
さくらんぼ四つ	
サラミ	
ソーセージ	

たべたかな?
たべなかったかな?
1・2年生
「はらぺこあおむし」

「はらぺこあおむし」の本を読みます。後で、はらぺこにならないように、よく聞いてください。

読み聞かせの後に、「たべたメニュー」をくべります。メニューにある食べものを「はらぺこあおむし」が食べていたらO、食べていなかったらXをつけてください。

さて、あなたは、「はらぺこあおむし」の食べたものをぜんぶ見つけられるかな?



→お勧めの本



入試コーナー

⑥ 読書推進のための環境整備

テーマを決めてコーナーを設置（人権、おすすめの本、入試、行事など）したり、読書の木を作成したり、読書に関する情報（読書貸出冊数の記録表）やポスター、図書館新聞を掲示したりした。また、児童に人気のある本棚の写真を掲示したり、コーナーに置いた本の表紙をラミネートして、貸出中もどんな本か分かるようにしたりして、児童が返却しやすいようにした。図書司書や図書委員と連携することで、魅力的な学校図書館づくりを行うことができた。

⑦ その他の取組について

- 図書室開館時間の制限をなくし、各学級の裁量でいつでも使用できるようにしたり、昼休み、座席での閲覧を可能にしたり、貸出冊数を1冊増やしたりした。
- 読書郵便「細田中校区3小学校が、児童一人ひとりが書いたおすすめの本、イラスト、紹介文を載せた模造紙を回覧して読みあった。
- 曜日ごとに、借りてほしい本のジャンルを決めた。（月曜日は物語や小説、木曜日は自由）
- ICTを活用した。（おすすめの本をロイロノートで作成し、全校児童が閲覧できるようにした。図書通信を月に1回作成し、TVモニターで紹介した。チームス(Windowsのアプリ)を使って、集会を行った）
- 週に1回、図書委員会が放送で、読み聞かせ、おすすめの本紹介、ブックトークを行った。
- 学校図書館司書及び市立図書館と連携し、授業に必要な資料を準備してもらったことで、充実した授業が展開できた。
- 図書館祭りでは、ボランティアを募り、図書委員会と一緒に取り組んだ。
- 朝の会で「自分のおすすめの本」についてスピーチする取組を行った。

成果と課題

(1) 成果

- 図書司書との連携、また、放送やICTの活用により、児童生徒にとって魅力ある読書啓発活動を進めやすくなり、その結果、本に興味を持つ児童、違ったジャンルの本を読む児童、本を借りる児童が増えた。また、図書司書に必要な資料を借りてきてもらえるので、学習をスムーズに行うことができた。
- 児童生徒が利用しやすい環境を整えたことで、図書館の利用が増えた。

(2) 課題

- 高学年になるほど読み聞かせの時間の確保が難しく、読書の二極化もみられるので、意図的に利用する時間の設定や、ビブリオバトルや読書集会など、児童生徒主体の活動やICT活用の工夫が必要である。図書司書や家族との連携も、もっと充実させていきたい。
- 古い本が多い、授業で使う本が不十分、エアコンがない、教室から遠いなどの課題から、もっと児童生徒が利用しやすく充実した図書室環境を整備していく必要がある。

〈研究担当者 日南市立 東郷小学校 森崎 綾子〉

⑩宮崎東支部

学校における読書指導 ～各校における読書指導の実践を通して～

国富町立森永小学校 教諭 川野 美輪

1 はじめに

本地区は、宮崎県の中心部からほど近く、緑豊かで自然に恵まれた環境にある。本地区には2町9校（小学校5校、中学校4校）があり、図書主任会のおりに、各校の取組や実践について情報交換しながら、図書館教育を進めている。児童数100人前後の小規模校も数校あり、半数の学校では司書教諭や図書事務の配置がない中（R3度）図書主任を中心に図書館運営と読書指導の充実を図っている状況である。

2 主題設定の理由

児童の読書活動を充実していくため、研究主題「豊かな心と学びを育む学校図書館」のもと、現在取り組んでいる実践内容を深めたり、新しい実践をつけ加え広げたりしていくことで、よりよい図書館経営を目指す。

3 研究目標

- 豊かな心と学びを育む学校図書館
～各校における読書指導の実践及び情報交換を通して～

4 研究の仮説

各学校において、「豊かな心と学びを育む学校図書館」を目指した実践活動を行い、さらにそれらの情報を交換して実践内容を深めたり、広げたりすれば、児童の読書活動が充実し、よりよい図書館経営を行うことができるだろう。

5 研究の実際

(1) 集会活動の実施

ア 読書集会

多くの学校で、図書委員を中心とした読書集会を実施した。読書クイズや委員会おすすめの本の紹介等スライドを活用しながら発表し、読書への関心を高める会となった。特に八代小では、「なぞの本X」として、おすすめの本を封筒の中に入れて紹介した。児童は、袋に書かれたおすすめポイントを手掛かりに本を借りるので、本を借りてから袋を開けるのを楽しみにしていた。金曜日だけの取組にしたので、金曜日の貸し出しが他の曜日より多くなった。



【読書集会（森永小）】



【なぞの本X（八代小）】

イ 図書館まつり

綾小学校・綾中学校・綾町立図書館では、同時期に「図書館祭り」を行い、中学生が作成した案内ポスターを小学校に貼る等、その期間は小学校・中学校・町立図書館が一体となって読書の推進を図った。

- 読書ビンゴ～読んでほしい本のビンゴカードを作り、揃うと景品を渡した。
- 読書の木～自分が読んでよかった本を紙に書き、読書の木に貼って掲示した。
- 本紹介～図書委員会の児童がみんなに勧めたいの本の表紙をコピーし、コメントを書いて図書室横掲示板に掲示した。

○カード絵合わせ大会～「綾中が選ぶ80冊」の表紙をカード化し絵合わせを行った。



【カード絵合わせ大会】



【景品贈呈】



【宝（本）探し大会】

(2) 読み聞かせの実施

ア 地域ボランティアによる読み語り

綾中では、ボランティアの方々がテーマを設定して選書を行い、年間9回の読み語りを実施している。落ち着いた心で一日がスタートできると共に、生徒の図書選択の幅も広がった。選書のテーマ：「友情」「心と体」「民話」「平和の願い」「戦争」「自然」「震災」等

イ 児童間で行う読み聞かせ

森永小では、図書館へ足を運ぶきっかけづくりと普段自分では選ばないような本との出会いをねらい、児童間（委員会児童や6年生から低学年へ）での読み聞かせを行った。

(3) 読書推進期間の設定

ア 読書の日

国富町では、全小・中学校で毎月15日を、綾小学校では、毎月第2水曜日を読書の日として、家庭での読書を推進してきた。各学校では、この「読書の日」に合わせて、親子読書週間を設定したりノーメディアデーを実施したり、様々な企画を工夫しながら実践した。特に木脇小では、15日を含む1週間を「読書週間」とし、感想文コンクールを行い、選ばれた感想文は、校内放送で紹介し本や友達の考えに関心をもつことができるようにした。

6 成果と課題

(1) 成果

- 各学校での取組を伝え合うことで、自校での取組の参考にすることができた。
- 町で「読書の日」や「読書祭り」が設定されているので、それに合わせた実践を各学校で工夫して行うことができた。

(2) 課題

- 各学校で同じような問題点が提示されたが、それらを解決するための共通実践にまでは至っていない。
- 町の取組（読書の日等）に合わせて、取り組む内容について共通化を図ることで、より効率的で効果的な実践を行うことができる。

7 おわりに

今回の研究を通して、各学校の実践事項について情報交換し、その内容を共有することができた。また各学校での問題点も分かり、それらには共通する事項も多かった。コロナ禍でなかなか主任会等を行うことはできない状況が考えられるが、今後はさらに町全体を通しての取組や課題解決のための手立て等、実践内容を共有化することが大切であると考え。より効果的・効率的に読書指導を行うことで、継続的な図書館経営を目指していきたい。

⑪宮崎支部 研究のまとめ

小学校 48校、中学校 27校、合計 75校

はじめに

本年度の県大会では、宮崎支部の研究主題「特別支援教育における読書活動～特別支援教育の視点に立った読書指導～」のもと、令和3年度及び令和4年度に各学校で実践した取組を、宮崎市立木花小学校が代表として発表を行った。そのため、その内容について報告するとともに、次年度に向けて各学校で実施を予定しているアンケート項目について経過を報告したい。

1 研究主題 「特別支援教育における読書活動」～特別支援教育の視点に立った読書指導～

2 主題設定の理由

特別支援教育は、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点」に立ち、児童生徒一人一人に応じたニーズを把握し、指導・支援を行っていくものである。特別支援教育の視点から「読書活動」を見てみると、児童生徒のニーズに応じた読書活動の展開を行うことが必要である。また、特別支援教育は、特別支援学級のみならず、通常の学級、そして学校全体で推進されなければならない。そこで、ユニバーサルデザインの視点や子どもの実態に応じたニーズの視点に立ち、誰もが使いやすい図書館を目指し、できることから少しずつでも改善していくことが、特別支援教育における読書活動の充実につながると考える。

3 研究の目標

各校における学校図書館運営・読書活動をユニバーサルデザインや児童生徒一人一人の教育的ニーズの視点に立ち、見つけ、共有することで、自校の読書活動の多様なニーズに応じた読書活動の活性化を図り、教育における読書活動の充実を目指す。

4 具体的な取組（学校図書館を中心とした取組）

「誰もが利用しやすい学校図書館」を目指した取組

<学校図書館の環境整備> ～書架の取りやすさ・並びの分かりやすさを工夫する。

- 図書の配架の高さを配慮
- 「図書分類」の表示を大きくしてわかりやすくした（大文字・イラスト入りなど）
- 仕切り版（たな表示）の工夫（イラストや読みやすい文字を表示）
- ピクトグラムの利用

<学校図書館の環境整備> ～場の工夫をして利用しやすくする

- 個室、個室スペースなど
- 畳スペース（じゅうたんスペース）、ベンチスペースを設置
- 児童生徒のクールダウンの場所として活用（子どもの居場所としての利用）

<本の展示の工夫> ～掲示を工夫して読書への興味をもたせる

- 読書コーナーの設置（テーマを決めて）
- 本の並べ方を工夫（表紙を見せ、視覚的な興味）

<手続きの簡素化・わかりやすさ> ～本を借りやすくする、手続きを簡素化する

- 「貸出・返却」の手順を掲示（ひらがな・ルビ・イラスト入り）
- 貸出、返却手続きの簡素化・簡略化（学校司書、読書活動アシスタント、図書委員会の活用）

<所蔵本の工夫、機器・補助具の利用> ~本にふれやすくする、読書への意欲・関心をもたせる

- | | | |
|---------------------------------------|--------------------|---------------|
| ○ 大型絵本を準備、活用 | ○ イラスト・写真が多い本を選書 | ○ 紙芝居の活用、活用推進 |
| ○ 拡大機器の活用 | ○ LLブックの購入、活用、活用推進 | |
| ○ マルチメディアDAISYの活用及び活用推進 | ○ 視聴覚資料の活用 | |
| ○ リーディングスリット、リーディングトラッカーなどの利用（手作りも含む） | | |

<興味を持たせるための取組> ~学校司書・読書活動アシスタント等と連携した取組

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| ○ 学校司書、読書活動アシスタント等による資料選択、アドバイス | ○ 読み聞かせの実施 |
| ○ ブックトークの実施 | ○ アニメーションの実施 |
| ○ 各種イベントの実施 | ○ 児童生徒による選書 |

5 その他の取組

令和6年度の県北大会にむけて、テーマである「学校司書・司書教諭の役割」について、令和5年度の4月以降に市内すべての学校にアンケートを実施する予定である。校種の違いや配置人員の違いにより、アンケート項目への回答内容が若干変わってくるため、今年度中にアンケート内容について検討していきたい。

主なアンケート項目は以下のとおりである。

1	学校司書・司書教諭・読書活動アシスタントの支援による、TTの授業や支援方法の研究がなされているか。
2	読書活動とおした情報リテラシーの育成ができてきているか。
3	図書館活用の年間計画・図書館教育全体計画が作成され、活用されているか。
4	職員の図書館研修が行われているか。(実践事例の報告)
5	学校司書・読書活動アシスタントとの打ち合わせが実際にどの程度の時間行われているか。
6	学校司書・読書活動アシスタントの配置の有無による図書主任の仕事への影響はあるか。
7	学校司書・読書活動アシスタントとの打ち合わせをとおして、
8	学校司書・読書活動アシスタントによる独自の取組があるか。(「ある」という学校の実践取組の紹介)

6 成果と課題

(1) 成果

- 図書館の運営や読書活動をユニバーサルデザインや児童生徒のニーズに応じる視点から見つめなおしたことで、新たな環境づくりや見直しをする契機となった。
- 多くの学校の実践的な取組を知ることによって、より具体的なイメージや実践を現場に生かすことにつながった。
- 学校司書、読書活動アシスタントとの連携を通して、児童生徒の多様なニーズに応じた取組が各校で工夫して行われていることがわかった。

(2) 課題

- ユニバーサルデザインや児童生徒のニーズに応じた指導などを行って高めた読書への関心・意欲をさらに継続させる方策を考え、主体的に読書活動を行う児童生徒を育てていきたい。
- 学級担任・学校司書・読書活動アシスタント・司書教諭が一つのチームとなって、スムーズな連絡調整のもと、児童生徒一人ひとりに寄り添った読書活動が推進されるよう次年度以降、研究を行っていきたい。

〈研究担当者 宮崎市立 佐土原中学校 渡邊友恵〉